

年 月

日

小児科、耳鼻咽喉科、眼科の外来診療あるいは入院診療を受けられた
患者さんへ

「両側鼻涙管嚢胞を伴う先天性鼻涙管閉塞に対する治療法の検討」への協力をお願い

小児科、耳鼻咽喉科、眼科では、過去に下記のような診療を受けた患者さんの試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象： 平成 22 年 5 月日～令和 2 年 12 月 31 日までに当科において、急性涙嚢炎
治療を受けられた方

研究期間：倫理審査委員会承認日～令和 7 年 3 月 31 日

研究目的・方法：

先天性鼻涙管閉塞は生まれつき涙道が鼻腔に開口する部位で閉塞しているもので、生後まもなくから流涙と眼脂がみられ、抗菌薬の点眼で眼脂は減りますが、中止するとまた増えます。新生児の 6～20%に見られ、96%が1歳までに自然治癒したと報告されています。治療法は涙道洗浄、ブジーまたは涙道内視鏡による閉塞部の穿破です。ブジーは簡便ですが不確実で、敗血症を起こす可能性があります。高い自然治癒率のため、治療時期については意見が一致していません。

今回、岐阜大学医学部附属病院小児科、耳鼻咽喉科、眼科を受診した先天性鼻涙管閉塞の治療後発症した急性涙嚢炎を詳細に検討し、涙道洗浄、ブジーを行う危険性を示すことを目的とします。

あなたの年齢、性別、身体所見、他覚所見、血液検査、細菌検査、使用薬剤、眼窩部画像検査、鼻内視鏡検査、涙道検査を診療記録より収集します。決してこの調査票にはあなたの個人情報記入されません。この研究のために新たに検査をしたり試料を採取することはありません。

研究に用いる試料・情報の種類：

取得する情報は、年齢、性別、身体所見、他覚所見、血液検査、生化学検査、細菌検査、薬剤感受性検査、使用薬剤、鼻内視鏡検査、涙道検査、眼窩画像検査です。

今回の研究で新たに採取する試料はありません。

研究への参加辞退をご希望の場合

本研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりませ

ん。本研究に関する質問等がありましたら以下の連絡先まで問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の連絡先まで申し出ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 眼科

電話番号 058-230-6288

氏名：岩崎雄二

研究責任者

岐阜大学医学部附属病院 眼科

氏名：岩崎雄二